都立府中療育センター新聞　第455号　発行日　平成27年10月30

第４１回日本重症心身障害学会 学術集会に参加して

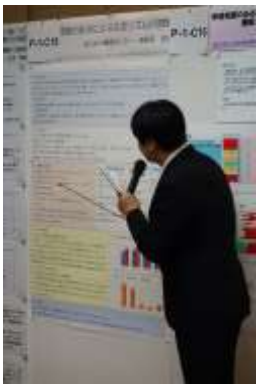
小児科　齋藤　菜穂

一橋大学一橋講堂で行われた第４１回日本重症心身障害学会学術集会に参加しました。今回は東京での開催であったこともあり、参加者がとても多く、会場はかなり混み合っていました。当センターからは医局、看護科、訓練科それぞれから２題ずつ、計６題の発表がありました。それぞれ、日常のセンターの業務の中での工夫や研究をまとめられており、発表の際には活発な質疑応答が行われました。発表者以外にも多くの職員が参加し、他施設の経験や研究から最新の知見を学んだり、他施設の方々と交流したりしていました。

プログラムとして、シンポジウムでは「重症心身障害への医療的支援の現在・過去・未来」、「重症心身障害と生命倫理」、「重症心身障害に対する看護の成果と課題」、「障害者虐待の現状と対策について考える」と４題があり、重症心身障害医療の歴史的な流れから未来へのメッセージ、生命倫理や障害者虐待などの最近のトピックス、看護の成果と課題など多彩な内容で行われました。教育講演ではお隣の都立神経病院の脳神経外科医師、谷口真先生より「目で見る脳神経外科治療」と題して重症心身障害児者では関わりの深い脳神経外科での治療について有意義なお話をいただきました。その他にもランチョンセミナーでは栄養に関する話題が３題あり、また恒例のファッションショーも行われました。一般演題でも各施設がいろいろな調査・研究の成果、工夫をしたことなどを発表されていました。

いずれの内容も重症心身障害児者の療育に携わる者としては興味深く、センターの日常にも生かせる内容が多く、非常に有意義で充実した時間でした。また、重症心身障害学会の特徴である、多職種のさまざまな視点からの発表があり、多職種連携の重要性を改めて感じました。

私自身は「重症心身障害児者施設生活病棟に長期入所中の利用者における睡眠時無呼吸の実態」を発表させていただきました。この発表も病棟職員、検査科職員の協力のもとに調査できたものです。今後もこの学会で学んだことを生かし、多職種の目を大切に、チームでアプローチしていきたいと思います。



最後に、留守を守っていただいた職員の皆様に感謝いたします。

第７回府中療育センター　★　★　★　★　★

指導科　石田　泰美

第７回府中療育センター祭が１０月１４日（水）～２１日（水）に開催されました。イベント日は１６日（金）、１７日（土）。まず、参加した利用者Ｈさんの声を紹介します。『グランドでいろんなコーナーを見回るのを楽しみにしていたのに、雨が降ってしまってとても残念だった。ゼリーがおいしかった。いつも一緒に活動している職員がかぼちゃ頭になってゲームコーナーにいた。的当てで当てて景品をもらった。大きな神輿を病棟のみんなと作って飾った。１－Ｂ病棟の展示が、みんなが舞踏会のドレスを着ていてかわいかった。』

今年のイベント日は、あいにく２日間とも雨となってしまいました。残念に思ったのはＨさんだけではないと思います。でも、年に一度のお祭りに、利用者、ご家族、地域の方、職員が様々なコーナーで楽しみました。２日間の様子を少しですがお知らせします。

舞台発表初日は、利用者によるステージからスタート。劇やダンス等のパフォーマンスに会場は大いに沸き、次に行われた「人生節目の会」で、成人、還暦、古希を迎えた6名の利用者の方々を皆でお祝いしました。２日目は、ボランティアの方々への謝意をこめた表彰式から始まり、その後は楽しいステージのオンパレード！楽器と歌のコンサートでは童謡や演歌を奏者と一緒に楽しみ、「ジュリーズクラブ」の華やかなショーでは夢のひと時を過ごしました。三味線と共演した中国の伝統芸能「川劇」は、一瞬にして変面する技に会場から歓声があがりました。

ゲーム・体験コーナーでは、ハロウィンをテーマとした「的当て」と「千本釣り」に、挑戦者は一喜一憂。ペットボトル等のアクセサリー「手作り教室」は、きれい、と大人気でした。その他「ネイル＆タトゥー」、「占いの館」、「障害者とのむこと、食べることに関する、講演会・体験・相談」のコーナー、「感染予防の話と体験」のコーナー、「くぬぎショップ」等が登場しました。

食べ物コーナーからは、介護食のレトルト食品を利用した「さといも・かぼちゃ」、「クリームシチュー」や「ゼリー・アイス」が提供され、家族から食べやすい、参考にしたいと関心を寄せる声が聞かれました。

家族会主催の「わたあめやさん」では、食べた人はみんな笑顔になり、地域の作業所等の皆さまが作ったパンやお菓子、雑貨製品は、おいしい、かわいいと今年も大好評でした。

その他、ジュリーズクラブと千本つりの病棟訪問や、感覚刺激コーナー、全体制作、各部署の作品展示もありましたよ。

盛りだくさんのセンター祭でしたが屋内開催で会場が分散し、全部のコーナーを見られなかった方もいらっしゃったかと思います。来年は、太陽の下で晴れやかに開くことができますように。

最後に、開催にあたっては内外に渡り多くの方のご支援、ご協力を賜りました。本当にどうもありがとうございました。

平成２７年度訪問健康教室「肩こり・腰痛の予防と体操」

事務室　山口　裕輔

１０月９日（金）あじさい館多目的室において、東京都職員共済組合のマッサージ師を講師としてお招きし、平成２７年度訪問健康教室「肩こり・腰痛の予防と体操」を開催しました。

教室の前半は肩こり・腰痛の原因及び発症後の処置方法についての講演、後半は肩こり・腰痛予防の実習でした。

肩こり・腰痛を発症するには必ず原因があり、その原因が判明すれば自ずと解決方法も分かってくるため、原因追究の大切さや、原因になり得る様々な要素についてお話ししていただきました。また、痛みが急性か、慢性かにより発症後の処置方法が異なることを知り、大変勉強になりました。

実習では、腰痛にならないための体の動かし方や、筋肉の緊張をほぐし体を柔らかくする体操及び腰痛予防のための簡単な筋力トレーニングなど様々な体操を教えていただき、実際に体を動かし体験させていただきました。

今回お話しいただいたことを参考に、職員の肩こり・腰痛を少しでも改善し、自らの健康維持に留意し、利用者にこれからもより良いケアを提供できればと思います。

新人看護職員臨床研修修了式

１０月２１日（水）平成２７年度看護職員臨床研修修了式が行われました。
６か月間の研修を終えた新人看護師さんたちのコメントを紹介します。

看護学校時代の実習でも経験したことのない、重症心身障害児者施設での業務に戸惑いながらも、病棟スタッフや看護科の皆様に支えられて半年が無事に過ぎました。
利用者の方々を通して家族の皆様の支えを実感し、センターで生きるとはどういうことか、寄り添う看護とは何かを考えながら、これからも日々研鑽してまいります。

入職から早6か月過ぎました。当初は、病院とは違う初めての療育の現場で戸惑いながらも、研修や諸先輩方からの指導の下、必死に利用者の理解や看護の技術を学ぶ毎日でした。今は、療育現場で日々重症心身障害児者と触れ合う中で、自分の療育における看護観が芽生えるようになり、この気持ちを大切に取り組んでいます。

就職した当初は不安でいっぱいでしたが、先輩方や同期の仲間に支えられここまでくることが出来ました。看護をすることの難しさを感じることもありますが、じっくり丁寧に指導していただき、少しずつですができることが増えてきたように思います。
利用者さんを支えるチームの一員となれるよう、日々の学びを大切にしていきたいです。

臨床研修期間、あっという間でした。療育における知識を一から学び、個別性の高い利用者の理解につなげられています。新人一人ひとりの進度に合わせたフォローや丁寧な指導から技術を習得することができているので、今後さらに成長していきたいです。日々、利用者や先輩方から様々なことを学んでいると実感しています。

9月いっぱいで6か月の臨床研修期間を終えました。配属されたばかりの頃は業務の流れや利用者さんの個別性、ケアが把握しきれず、いつも慌てていました。しかし病棟の方々に丁寧なご指導をしていただき、徐々に落ち着いて業務を行えるようになりました。
まだまだ一人では不安なこともたくさんありますが頑張ります。

新人看護職員臨床研修修了を迎えました。入職当初は独り立ちできるか不安でしたが、先輩方の丁寧な指導により、看護師として日々成長することが実感でき自信を持って看護できるようになってきました。
センター職員としての自覚も持ち、自分の目標とする看護師になれるよう頑張ります。

療育での看護は専門性が高いため看護ケアの難易度も高く、日々難しさを感じ悩むことも多いです。そんな中先輩方が、悩んでいることはないか気にかけてくださいながら丁寧に段階的に指導してくださいました。おかげで、個別性に合わせた基本的な看護ケアが少しずつですができるようになりました。感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張っていきたいです。

〒１８３－８５５３
東京都府中市武蔵台２－９－２
東京都立府中療育センター
電話　０４２（３２３）５１１５
Fax　０４２（３２２）６２０７

＊－＊－＊ホームページもご覧下さい＊－＊－＊
http//www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html